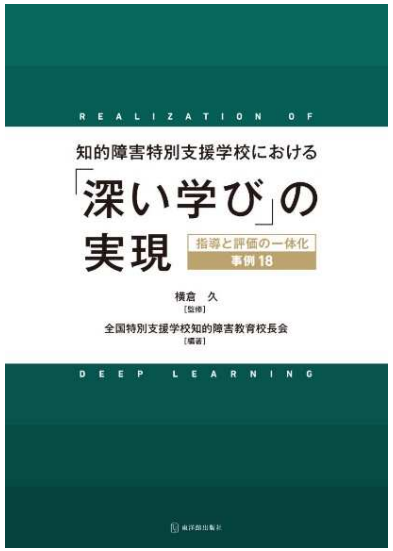
新着図書の紹介①

『知的障害特別支援学校における
「深い学び」の実現
―指導と評価の一体化』
著者：横倉 久（監修），
全国特別支援学校知的障害教育校長会著
出版社：東洋館出版社

知的障害教育における「主体的・対話的で深い学び」は、指導と評価の一体化によってこそ実現する。「実践編」では新しい評価方法をふまえた18事例を紹介。また、「資料編」では新学習指導要領における各教科の目標を段階ごとに整理して掲載している。



『スローコミュニケーション
わかりやすい文章
わかちあう文化』
著者：野澤 和弘
出版社：スローコミュニケーション

知識と情報がたくさんあると、文章が簡潔になる。深く理解していると、文章がやさしくなる。相手を知っていると、文章が伝わる。障害のある人の意思決定支援、合理的配慮、共生社会…そのすべての土台となる「スローコミュニケーション」から考えていく。

『感覚と運動の高次化理論からみた発達支援の展開
子どもを見る眼
発達を整理する視点』
著者：池畑美恵子
出版社：学苑社

感覚と運動の高次化発達ステージの4層8水準の発達段階を把握し、個々の育ちの方向性・可能性を見据えて支援を組み立てる。「感覚と運動の高次化理論」を通した子どもの読み取り方から臨床実践までを整理。発達につまずきのある子どもの育ちを捉える上で重要な視点を示す。

『3ステップで行動問題を解決するハンドブック
小・中学校で役立つ
応用行動分析学』
著者：大久保賢一
出版社：Gakken

「子どもが望ましい行動をやってくれない」「問題となる行動をやめてくれない」ことを「行動問題」と呼び、教育活動や子育ての中でそれを解決できるよう、応用行動分析学(ABA)の理論や技法を活用し、子どもの育ちを伸ばしていく。

新着図書の紹介②

『あたらしいほうりつの本』
著者：又村あおい
出版社：全国手をつなぐ
育成会連合会

障害のある人が地域で暮らしていくために、いろいろな支援やサービスがある。今の制度の多くは市町村の役所で手続きをして決定を受けないと使うことができない。そして、どのようなサービスが使えるかは、できるだけ自分で調べる必要がある。障害のある人が地域で暮らしていくために必要なサービスをわかりやすく紹介する。

『中級編ジャンプアップ
とけい・おかね・カレンダー』
著者：遠藤敏子
出版社：有限会社KOBATO
こばと教材出版

ジャンプアップ　シリーズは文字・数字を習得した子どもが、さらに国語・算数への理解を深めるような内容で構成されている。時計・お金・カレンダーの学習を取り入れ、実生活にもつながるように工夫されている問題集となっている。